HBC北海道放送
Press Release

2025/6/20

ギャラクシー賞 2025年5月度 月間賞に選出
HBC 制作ドキュメンタリー「罪と償い～事件を裁いた先に～」

TBSドキュメンタリー『解放区』で5月18日に放送された、HBC制作のドキュメンタリー「罪と償い～事件を裁いた先に～」が、ギャラクシー賞 テレビ部門で2025年5月度月間賞に選ばれました。

【番組名】
「罪と償い～事件を裁いた先に～」 ディレクター：三栗谷皓我　プロデューサー：山﨑裕侍

【内容】
旭川女子高校生殺人事件、江別男子大学生集団暴行死事件…。去年、北海道では若者による凶悪な犯罪が相次ぎました。刑事裁判で被告となった若者たちから発せられる「後悔」と「償い」。いつの時代にも変わらない重い問いでもあります。

少年による刑法犯数が戦後ピークを迎えた1980年代。「史上最悪の少年犯罪」といわれるのが1989年に起きた東京都足立区綾瀬の女子高生コンクリート詰め殺人事件です。事件の加害者のひとりである準主犯格のBが、孤独死していたことが独自取材で明らかになりました。

裁判で裁かれたあと、その後の加害者たちはどうなっているのか。実はメディアはあまり検証できていません。そして6月に日本の刑務所で拘禁刑が導入され、明治以来の大変革を迎えようとしています。刑罰の現場で受刑者に科すものを、「罰」ではなく「償い」へとシフトするのです。刑務所では北海道のあるマチで長い間取り組まれている対話を参考に、受刑者の立ち直りに向けて試行錯誤しています。

番組は若者による凶悪事件の「現在」を検証し、加害者の「その後」を見つめ、将来の「償い」のあり方について考えます。

【講評】 ※放送批評懇談会から6/20(金)に発行されたプレスリリースより抜粋
6月に拘禁刑が導入され、受刑者には「罰」ではなく「償い」を科し、特性に応じた更生プログラムが実施される。再犯率約5割の現実のなかで、女子高生コンクリート詰め殺人事件の準主犯格の一人が孤独死していた事実には驚いた。浦河町で続く「当事者研究」を参考に、受刑者への個別の対応を模索する刑務所の取り組みに期待する。

【HBCニュース公式YouTubeで配信中】
https://youtu.be/YLpDNvK8GP4?si=MTJK5P6Nla5iZXR7

【お問い合わせ】
HBC北海道放送　報道部（電話）011-232-5876